

2014年4月5日

平成26年度

桜の聖母学院中学校・高等学校

入学式式辞

桜の聖母学院中学校・高等学校

校長 伊達 幸子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。平成26年度は、中学校に34名、高等学校に152名の皆さんをお迎えできますことを嬉しく思い、心から歓迎いたします。

ご来賓の皆様にはお忙しいところ、桜の聖母学院中学校・高等学校の入学式にご臨席を賜りまして、感謝申し上げます。

### 桜の聖母学院の名前の由来

桜の聖母学院は、コングレガシオン・ド・ノートルダムという名前の修道会によって設立されたミッションスクールです。私たちの学校のもともとの始まりは、今からおおよそ356年前に遡ります。

1653年、日本で言えば江戸時代の初めごろ、フランスから一人の女性、マルグリット・ブルジョワがカナダに渡り、1658年に現在のモントリオールで小さな学校を始めました。マルグリットは、フランス人の子どもたちもカナダの先住民の子どもたちも分け隔てなく教育し、新しい国づくりに貢献できるように、信仰教育と読み書き、算数などを教え、また、若い女性たちが自立できるように助けました。

その後、マルグリットの生き方に賛同する女性が増えてきて、コングレガシオン・ド・ノートルダムという修道会ができました。修道会の会員は世界に増え続け、今は、カナダ各地のほか、アメリカ合衆国、中米のグアテマラ、ホンデュラス、エルサルバドル、アフリカのカメルーン、ヨーロッパのフランスに支部があります。

日本には、今から約80年前にカナダから5人のシスターが来日し、桜の聖母学院を創立しました。ノートルダムというのは、フランス語で聖母マリアのことを意味しているので、学校の名前をつけるときに聖母マリアさまの名前をいただき、日本の象徴の花、桜をつけていただきました。マルグリットが学校を開いたときから、今も大切にしている教えは、「万事に超えて神を愛し、自分を愛するように隣人を愛しなさい」という教えです。

### 人々のために、自分の持っている力を使うこと

私たちは、生まれた日や場所は一人ひとり違いますが、縁があって、今日ここに集い、桜の聖母学院中学生、高校生になりました。ここで出会う友達は、これからの長い人生の

中でもかけがえない友達になるでしょう。喜びのときも悲しく苦しいときも共に分かち合い、励ましあえる仲間です。

ここにいる私たちはみな、両親の愛に育まれてここに存在し、同じ願いを持っていると思います。それは、幸せに生きるということです。

たぶん、今から 12 年前とか 15 年前、みなさんが誕生したとき、ご両親や家族の皆さんが口々に「よかったわね」と言われ、みなさんは心から祝福されたことと思います。みなさんが笑っていても、泣いていても、もう、皆さんがいるというだけで、家族中が喜びに包まれていました。それ以来、たくさんの人々から無償の愛をうけてきて、少しずつ成長し、中学生・高校生になりました。今度は、少しずつ、皆さんの力を周りの人に貸していただきたいのです。

マリア様が、出産間近な、いとこエリザベトを訪問して喜ばれたように、みなさんが、話を聞いてほしい人、病気で弱っている人、お年寄りになって元気をなくしている人などを訪問して、顔を見せてあげるだけで、きっと喜ばれることでしょう。

みなさんは、あなたにしかできない才能・賜物をいただいています。それを見つけ、伸ばしていけるように、皆さんも様々なことに挑戦していきましょう。

今日読まれた聖書の言葉には、「求めなさい。そうすれば、与えられる。」ということがありました。自分にあてはめて考えてみましょう。「求めなさい」と言われていますが、私は何を求めているのでしょうか。

例えば、将来は医師や看護師になりたい、国際社会で活躍するビジネスパーソンになりたい、音楽や芸術の分野で活躍する人になりたい、福島復興に貢献できる弁護士になりたいなど様々な希望があることと思います。そのような夢を持ち続けましょう。十代のころに持っている夢は、それを実現できる可能性があるからです。願わないことには、先生方も手助けできないのです。

私たちはたいてい、根本的な要求として、「愛されたい、優しくしてほしい、親切にして欲しい、励ましの言葉をかけてほしい、人から認められたい……」と思っています。しかし、アシジの聖フランシスコの祈りに「慰められるよりは慰めることを、理解されるよりも理解することを、愛されるよりも愛することを私が求めますように」とあるように、私も「人から理解されたい」と思うなら、先ず、「人を理解する」ように人の話をしっかり聴き、人から、「大切にされたい」と思うなら、まず、「人を大切に」しましょう。

## 自分から学ぶ習慣を身につけること

今もすでにグローバル社会（国際的な社会）になっていて、人や物や情報が国境を越えて行き来しています。皆さんが大人になるときは、今よりももっと世界の人々と交流が盛んになり、皆さんも海外に行く機会が増え、外国の人々と一緒に仕事をする機会が増える

ことと思います。文化が違う、言葉が違う、考え方が違うというのは、あるときは、摩擦の原因にもなるのですが、相手の文化・言葉・違いを認め、尊重しあうことで、より豊かな体験につながります。ちょっとした挨拶の言葉で、相手の人の心が開かれ、友達になれるのです。

刻々と社会情勢は変わり、経済の動きは変化し、その場そのときに応じて新しい知識を学ばなければなりません。大人の私たちも、絶えず、学び、社会の変化に対応し、新しいテクノロジーについていかなければなりません。みなさんにとって、今、大切なことは、学校で先生方から教えていただくことを吸収すると同時に、自分から学んでいくという習慣を身につけることです。そして、勉強して知識が増すほど、わたしは「こういうことを知らなかった」ということに気づき、謙虚になるのです。

長い人生のうちには、順調に行くときも、失敗して落込んだり、友人関係で悩んだり、思わぬ事故や病気に見舞われることもあるでしょう。世の中には、変えられることと変えられないことがあります。すでに過ぎ去ったことは変えることができません。変えることができるのは、私のものの見方や考え方、受け止め方、そして私の未来です。私の未来は、私が拓いていけるのです。前向きに物事を捉え、正しいこと、良いことを選んで実行し、今できることに集中して毎日を丁寧に過ごしていきましょう。

## 保護者の皆様へ

保護者の皆様、本日はお子様のご入学おめでとうございます。進学先として、本校を選んでいただきました信頼にお応えできるよう教職員一同が一致して、教育活動にあたりたいと存じます。何かご心配な点などございましたらご遠慮なく、いつでも本校の教職員にご連絡いただければ対応してまいります。これからもあたたかくお子様の成長を見守っていただき、心身面のサポートをしていただけますようによろしく願いいたします。

皆様のご家族お一人おひとりの上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りして、式辞といたします。